兵庫生物 12 (2) : 107−111, 2001 〈報告〉

雲南省玉龍雪山で見たシダ

白 岩 卓 巳*

はじめに

中国雲南の省都昆明から600km離れた地に麗江がある。麗江の北に氷河をいただく玉龍雪山5596mがそびえている。

玉龍雪山山麓部にどのような種類のシダが生えているだろうか。数日の旅の中でシダ植物に注目し，日本のシダと関連がみつかるのか，興味と期待を抱いて出掛けた。その見たところを報告する。

1．玉龍雪山の東斜面

特に目を引いたものを挙げてみる。

(1) *Onychium* ホウライシダ科タチシノブ属

Plate 1 玉龍雪山東斜面に生える *Onychium* 属
－数種に分けられる－

写真1 流れに沿って生える

写真3 4の小裂片、包膜

写真2 1を拡大したもの

写真4 頂羽片が鋭く尖る

写真5 葉は立ち鋭く分枝する

*神戸市灘区鶴甲4−7 21—507

海抜2800ｍの地に，樹齢500年のツバキの大木がある、通称ツバキ寺がある。多くの参拝者のあるこの寺の手前には，珍しく小川が流れている。そこは小さな花園となっておるが，シダでは次のようなものを見た。

· *Onychium tenufrons* Ching
· *O.contiguum (Wall.)* Hope

日本に自生するタチシノブ属はただ一種のタチシノブ *O.japonicum* (Thumb.) Kunzeだけであるが，上の二種はタチシノブよりさらに裂片が細かいものである。よく調べると数種あるようだった。
なお，次のものも生えていた。

· *Equisetum arvense* L.（スギナ）
· *E.ramosissimum* Desf.（イヌドクサ）
· *Gymnogrammitis* dareiformis (Hook.) Ching
· *Thelypteris angulariloba* Ching
· *T.japonica* (Bak.) Ching（ハリガネワラビ）

（2）*Polystichum*　オシダ科イノデ属など

天然林の保護区である雲杉坪3400ｍへ出掛ける。リフトに乗りながら途中の森林の様子をみる。下部は *Pinus densata* の植林地，上に上がるにしたがってシャクナゲの原生林となっている。シャクナゲの大木にはヤドリギが寄生し，サルオガセを多くぶら下げている。雲杉坪は樹齢500年前後の巨木の森になっている。胸高直径40～50 cm, 樹高25ｍ余りの *Picea lkiangesis*，スギ，サクラ，カエデの類で構成されている。季節によって風の強い時

Plate 2　雲杉3400mの岩場につくシダ数種

写真１　自然林の雲杉坪

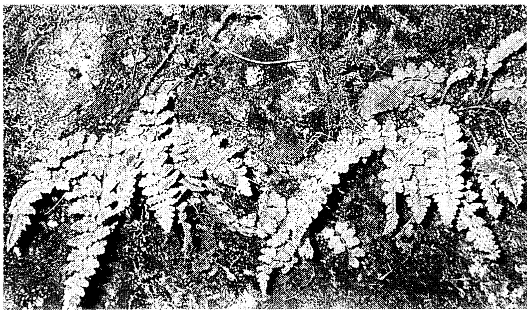
写真３　*Woodsia* 属

写真２　*Asplenium* 属

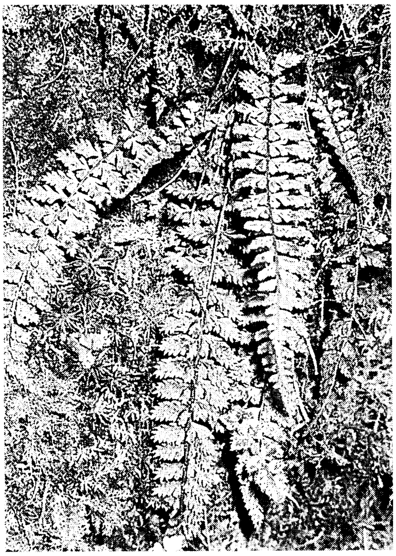
写真４　*Polystichum* 属

写真５　*Deparia* 属

期があり，強い風は木を倒し，連鎖して倒れる木も多く，森は徐々に空間を多くしてきているという。

しかも，ここでも放牧がおこなわれていることもあって，下草のシダは生えていない。着生シダもない。ただ一箇所，森の中で突出した岩場だけには次のシダが着生していた。

- *Polystichum lachenense* (Hook.) Bedd. タカネシダ
- *P.inaense* (Tagawa) Tagawa　イナデンダ
- *Asplenium sp.*
- *Cystopteris fragilis* (L.) Bernh. ナヨシダ
  日本では北海道から四国の山地の岩上・石垣に生える。
- *Woodsia andersoni* (Bedd.) Christ. イワデンダ科イワデンダ属
- *W.subcordata* Turcz.　キタダケデンダ
- *Deparia pycnosora* (Christ.)M.Kato *var. albosquamata* M.Kato（ハクモウイノデ）
- *Eriosoriopsis cinnamonea* (Ching) Ching et S.H. Wu.

林の下に生えているシダは次の2種くらいであった。

- *Dryopteris crassirhizoma* Nakai オシダ
- *Cornopteris crenulatoserrulata* (Makino) Nakai イッポンワラビ

2．乾燥する南斜面 ―ガンホーバ、ガンハイツ―

(1) *Polystichum* オシダ科イノデ属他

高さ2600m前後の地は裸地で草原である。岩はすべて石灰岩地である。岩場の窪みにかなり多いのは *Polystichum lonchitis* (L.) Roth.である。

Plate 3　乾燥する南面の石灰岩地に生える2800m alt

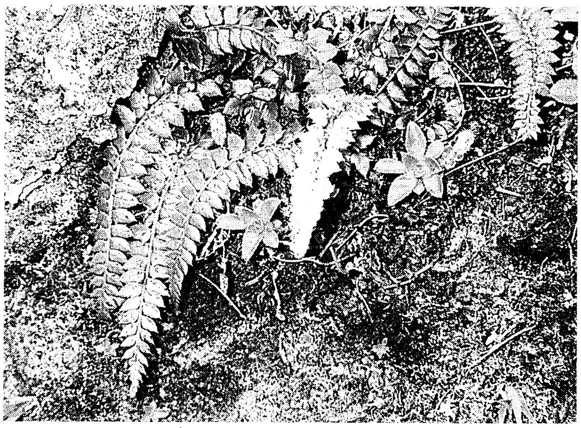

写真1　*Polystichum lonchitis*

写真3　*Pteridium revolutum*

写真4　*Selaginella tamariscina*

写真2　*P.lonchitis* の葉の裏

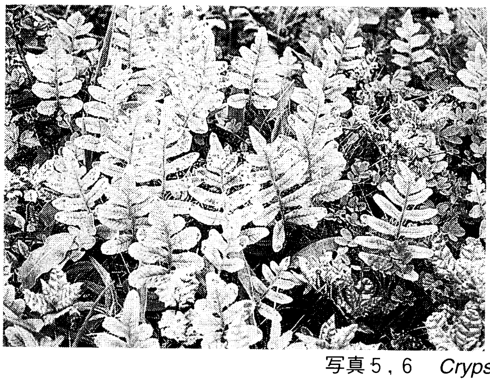

写真5，6　*Crypsinus* 属

日本に生えるヒイラギデンダと同じものか，ごく近いものである。日本で南アルプスの高山のやや陰湿な岩屑地に稀に生えるだけである。この種はヨーロッパ，ヒマラヤ，北アメリカにも分布するが，産地は限られている。

・長く続く草地・裸地には葉の裏が白いワラビが各所に群生している。放牧している牛は食べない。*Pteridium revolutum* (Bl.) Nakaiで日本のものとは違うワラビである。

・日本のイワヒバと同じもののようで，東南アジアの高地にも分布して *Selaginella tamariscina var. pulvinata* (Beauv.) Springイワヒバである。ヒメウラジロ *Cheilanthes argentea* (Gmel.) Kunze.も多い。

(2) *Phymatopsis* ウラボシ科ミツデウラボシ属のシダ

最下羽片の基部が円形で丸い楔形をしたシダで，乾燥する地面に生えている。かなりの広い面積に生えているのは *Phymatopsis shensiensis* (Christ) Chingである。日本にあるミヤマウラボシ *Crypsinus veitchii* (Bak.) Copel.は最下羽片が少し短い。ヤクシマウラボシ *C. yakuinsularis* (Masam.) Tagawaとも合わせて検討を加える必要がある。

(3) *Gymnopteris* 属（金毛裸蕨属）

3100m前後の高さの所に生える。葉の裏は全面毛で覆われている。はじめて見るシダで，調べた結果

Plate 4　ヒマラヤ山系に生えるmouse-ear fern 類

写真 1　*Gymnopteris delavaya*

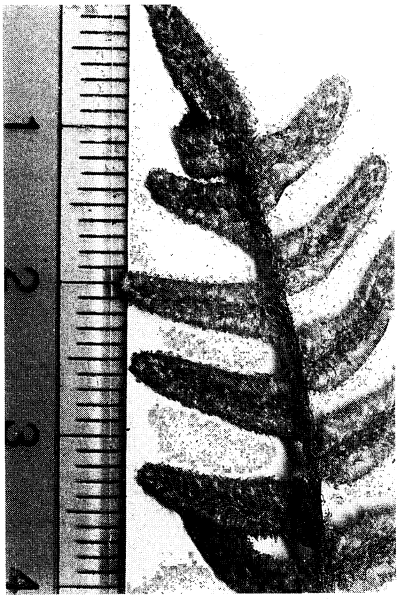

写真 2　*G.delavayi* の葉の裏

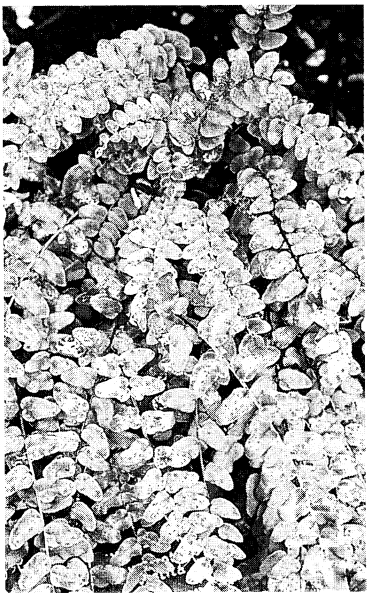

写真 3　*G.vestita*

蒼山中腹に生える

写真 4　*Athyrium* 属

写真 5　*Plagiogyria* 属

Gymnopteris delavayi (Baker) Underw. であることがわかった。葉表面の緑は濃く，つやのあるシダである。

同属のものに *G.vestita* (Wall.) Underw. があるが，これらは日本に生えていない。

Gymnopteris 属のシダは羽片の形と羽片の裏側に毛が多いことから"mouse ear fern"，いわゆるネズミの耳のような形をしたシダと呼ばれている。

G.vestita の写真はイギリスのKew植物園で栽培されていたものを写したものである。採集されたのは雲南周辺であることがラベルでわかった。

また，ヘビノネゴザ *Athyrium yokoscense* (Fr. et Sav.) Christ は多く生えていた。

(4) *Lepisorus* ウラボシ科ノキシノブ属

G.delavayi の生える上部3300mの高地にはノキシノブ属の *Lepisorus bicol* (Takeda) Chingがわずかに生えていた。

まとめ

1. 玉龍雪山で足を踏み入れた範囲は，かなり高所の奥地であったが，ここも多くは人の生活場所になっており，裸地が多かった。

   したがって，シダは予想していたより，種数・株数において少なかった。恐らく、シダの多い森林地は人が寄り付いていない奥地になるのであろうか。
2. 雲南の玉龍雪山の地も日華区系に含まれており，顕花植物のかなりのものが日本とつながっていることがわかったが，観察したシダも多くは共通のものか，近縁のものである。しかし，日本には全くないものもあって，出会った中の *Gymnopteris delavayi* はそれにあたるものであった。

＜参考文献＞

岩槻邦男（編）. 1992. 日本の野生植物，―シダ―. 平凡社.

中国科学院植物研究所. 1972. 中国高等植物図鑑，第一冊. 科学出版社.

中国科学院. 1983. 西藏植物志，第一巻. 科学出版社.